

令和4年度 事業報告書

| 一時預かり事業さくらルーム | | | | | |
|---------------|--|---------|---------|--------|-------|
| 稼働状況 | | | 令和4年度 | 令和3年度 | 前年度対比 |
| | 一時 | 実績人数 | 977名 | 1,077名 | -100名 |
| | 目標人数 | 2,400名 | 2,400名 | — | |
| | 差異 | -1,423名 | -1,323名 | — | |
| 重点項目 | <ul style="list-style-type: none"> ① 第4期経営5か年計画（4年目）の推進 ② 子どもの一人一人の育ちを尊重した保育の徹底 ③ 子ども主体の保育及び教育的視点を持った保育の充実 ～「保育所保育指針」に沿った保育の実践～ ④ 地域の子育て支援活動の充実 ⑤ 職員が成長する職場づくり ⑥ 感染症や災害の発生時を想定したBCP（業務継続計画）の策定 | | | | |
| 総括 | <p>本年度は、西宮市から西宮市立こども未来センター一時預かり事業者として、委託契約の7年目となり、当法人の基本理念に基づき第4期経営5か年計画の4年目として、法人保育園6園の協力のもと、以下の事業を取組むとともに、法人の季節行事等に参画し、法人内の事業所間の連携や職員間の交流にも積極的に取組むべき計画を立てスタートしたが、「新型コロナウイルス感染拡大対策」のもと、本年度も預かり数1日4名となったことで、事業推進は難航した。</p> <p>事業運営状況は、令和4年度の登録者数413名、年間運営日数243日、延べ申込者数1,259人、延べキャンセル数282人、延べ実利用者数977人、利用率77.6%、一日平均利用者数4.0人であり、予算達成はできなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 子どもの一人一人の育ちを尊重した保育の徹底 本年度は、保護者への対応に力を注いだ。預かり時の子どもの様子や家庭での様子を話合うことで育ちの共有をし、育児に負担を感じている保護者が、さくらルームで楽しそうに過ごしている子どもの姿に安心し、職員に対して信頼感を持ち、育児についての相談を受けることも増えた。より配慮が必要だと感じたケースは、その都度、センター職員に報告し、共に保護者の支援を行った。 また、安全で安心できる施設面における保育環境の整備は、子どもたちの健康管理、衛生管理、安全管理に対しての不測の事態に平時から備え、こども未来センターが実施する消火・避難訓練にも積極的に参加した。次年度も引続き、衛生管理及び安全管理、危機管理を徹底し、予想される感染症の発症や災害の発生に備え、子どもたちが安全で安心できる保育環境を整える。 ④ 地域の子育て支援活動の充実 さくらルームの適正な運営を目指し、定例会議を開催した。特に人材の効果的な運用ができる体制を整えるべく、令和4年9月からこども未来センターと、今後について会議及び電話等で議論を重ねた。結果、令和5年2月15日に西宮市より課題点をクリアの連絡を受け、次年度の運営継続が決定した。 ⑥ 感染症や災害の発生時を想定したBCP（業務継続計画）の策定 本年度は、法人指導の下、「BCP（業務継続計画書）」の作成に取掛かり、今後の感染症及び災害発生時の対応について保育部門で議論を重ね、業務継続計画書を策定した。 次年度から職員・保護者間で内容を共有し、シミュレーション訓練を繰返し、実用度を高め非常事態に備えることとしたい。 | | | | |

令和4年度

事業報告書

一時預かり事業さくらルーム

《基本理念》

- ① 公益的事業の積極的取組み
- ② 人権を擁護する
- ③ 発達支援・自立支援に向けたサービスの確立
- ④ 医療・教育・福祉の連携強化
- ⑤ 地域社会との共生

《重点項目》

- ① 第4期経営5か年計画（4年目）の推進
- ② 子どもの一人一人の育ちを尊重した保育の徹底
- ③ 子ども主体の保育及び教育的視点を持った保育の充実 ～「保育所保育指針」に沿った保育の実践～
- ④ 地域の子育て支援活動の充実
- ⑤ 職員が成長する職場づくり
- ⑥ 感染症や災害の発生時を想定したBCP（業務継続計画）の策定

本年度は、西宮市から西宮市立こども未来センター一時預かり事業者として、委託契約の7年目となり、当法人の基本理念に基づき第4期経営5か年計画の4年目として、法人保育園6園の協力のもと、以下の事業を取組むとともに、法人の季節行事等に参画し、法人内の事業所間の連携や職員間の交流にも積極的に取組むべき計画を立てスタートしたが、「新型コロナウイルス感染拡大対策」のもと、本年度も預かり数1日4名となったことで、事業推進は難航した。

事業運営状況は、令和4年度の登録者数413名、年間運営日数243日、延べ申込者数1,259人、延べキャンセル数282人、延べ実利用者数977人、利用率77.6%、一日平均利用者数4.0人であり、予算達成はできなかった。

1 第4期経営5か年計画（4年目）の推進

本年度は、第4期経営5か年計画の4年目に取組んだが、「新型コロナウイルス感染」の影響を受け十分な活動ができなかった。特に、地域に向けた子育て支援活動は開催が難しかった。

次年度は、第4期経営5か年計画の最終年度として「地域貢献への積極的展開」、「利用者や地域から信頼され選ばれる施設を目指す」、「経営基盤の自立に裏付けられた自律経営を目指す」の3つを重点項目に掲げ、法人理念の5本柱をもとに第4期経営5か年計画を積極的に推進していく。課題が挙げられた子育て支援活動は、「新型コロナウイルス」の取り扱い基準が変わることから、正確な情報の下、実施可能な活動を考え積極的に行なっていく。

2 子ども一人一人の育ちを尊重した保育の徹底

1) 子どもへの対応

本年度も引続き、「短時間預かり」「不定期預かり」「単発預かり」という預かり形態の特徴を踏まえ、子どもたちがさくらルームでの時間を楽しく過ごし、次の登園を楽しみに通えるよう「制作遊び」を一人一人の発達に応じたものを用意した。子どもたちは熱心に取組み、作品の仕上がりを喜ぶ姿に成長を感じた。

2) 保護者への対応

預かり時の子どもの様子や家庭での様子を話合うことで育ちの共有ができた。育児に負担を感じている家庭が増えているが、さくらルームで楽しそうに過ごしていることに安心し、職員に対して信頼を寄せ、育児についての相談を受けることも多かった。より配慮が必要だと感じたケースは、その都度、センター職員に報告し、共に保護者の支援を行った。

3) 安全で安心できる施設面における保育環境を整え、保育する

児童福祉法及び保育所保育指針に基づき、一人一人の子どもの健康の保持及び増進並びに安全の確保とともに、さくらルームの子ども全体の健康及び安全の確保を、西宮市こども未来センターと連携して取組んだ。

衛生管理対策については、日々の掃除・消毒に「新型コロナウイルス感染予防対策」も追加し、徹底した。また、安全管理対策については、法人統一の「安全点検」の仕組みで毎月行い、不具合個所の状況確認・対応を適宜行った。その結果、さくらルーム内での怪我はなかった。

また、危機管理対策については、子どもたちの健康管理、衛生管理、安全管理に対しての不測の事態に平時から備え、こども未来センターが実施する消火・避難訓練にも積極的に参加した。

よって、次年度も引続き、衛生管理及び安全管理、危機管理を徹底し、予想される感染症の発症や災害の発生に備え、子どもたちが安全で安心できる保育環境を整える。

3 子ども主体の保育及び教育的視点を持った保育の充実

預かり児は1枠4名であった。子どもたちの健康確認を保護者とともに丁寧に行い、保育を実施した。預かり時間内の活動は、「ふれあいあそび」と「自由あそび」「制作あそび」を行った。「制作あそび」は毎月季節を感じる題材を選び、年齢に応じた制作活動を用意した。活動中の様子から発達の確認も行った。子どもたちは意欲的に活動に取組み、出来上がった作品を保護者に見せる姿は自信にあふれていた。帰宅後も作品を介して親子の会話が弾むとの報告をたくさん受けるので、次年度も引続き行う。

4 地域の子育て支援活動の充実

さくらルームの適正な運営を目指し、定例会議を開催した。特に人材の効果的な運用ができる体制を整えるべく、令和4年9月からこども未来センターと、今後について会議及び電話等で議論を重ねた。結果、令和5年2月15日に西宮市より課題点をクリアの連絡を受け、次年度の運営継続が決定した。

【西宮市子ども未来センターとの定例会議】

| 開催日 | 議 事 | 参加者 |
|-----------|----------------------|-------------------|
| 令和4年7月28日 | 預かり児、保護者の情報共有、連携について | センター 4名、さくらルーム 2名 |
| 令和5年3月9日 | 預かり児、保護者の情報共有、連携について | センター 2名、さくらルーム 2名 |

5 職員が成長する職場づくり

法人基本理念の周知・徹底については、さくらルーム内で話し合いの時間をもちエピソード研修を行った。特に、「子どもの人権擁護」については保育実践の中で考え日々の保育実践に活かした。

施設内研修のテーマは「支援の必要な子どもと保護者を支える保育を考える」で、日々の預かり児の保護者とのやり取りから、育児に対する不安などの相談を受け助言を行なったことを職員で共有し学びとした。また、法人合同研修の「階層別研修・中堅職員の育成（聖和短期大学／立花先生）」に参加し、中堅職員としての役割に気づくことができた。次年度は、現場指導を取入れた研修に繋げ、さらなる職員の保育力の向上を期待する。

人事考課制度は、法人指導の下、計画通りに進めることができた。

【階層別研修・中堅職員の育成】スーパーバイザー：聖和短期大学／立花准教授

| 回数 | 日時 | 参加対象者 |
|------|------------|------------|
| 第1回 | 令和4年 5月24日 | 園長① |
| 第2回 | 6月21日 | 課長・主任・副主任① |
| 第3回 | 28日 | 担任A-① |
| 第4回 | 7月5日 | 担任B-② |
| 第5回 | 19日 | 8年以上① |
| 第6回 | 8月2日 | 園長② |
| 第7回 | 9月5日 | 担任B-② |
| 第8回 | 16日 | 8年以上② |
| 第9回 | 10月17日 | 課長・主任・副主任② |
| 第10回 | 18日 | 担任A-② |
| 振り返り | 11月29日 | 園長・課長・主任 |

6 感染症や災害の発生時を想定したBCP（業務継続計画）の策定

本年度は、法人指導の下、「BCP（業務継続計画書）」の作成に取掛かり、今後の感染症及び災害発生時の対応について保育部門で議論を重ね、業務継続計画書を策定した。

次年度から職員・保護者間で内容を共有し、シミュレーション訓練を繰り返す、実用度を高め非常事態に備えることとしたい。